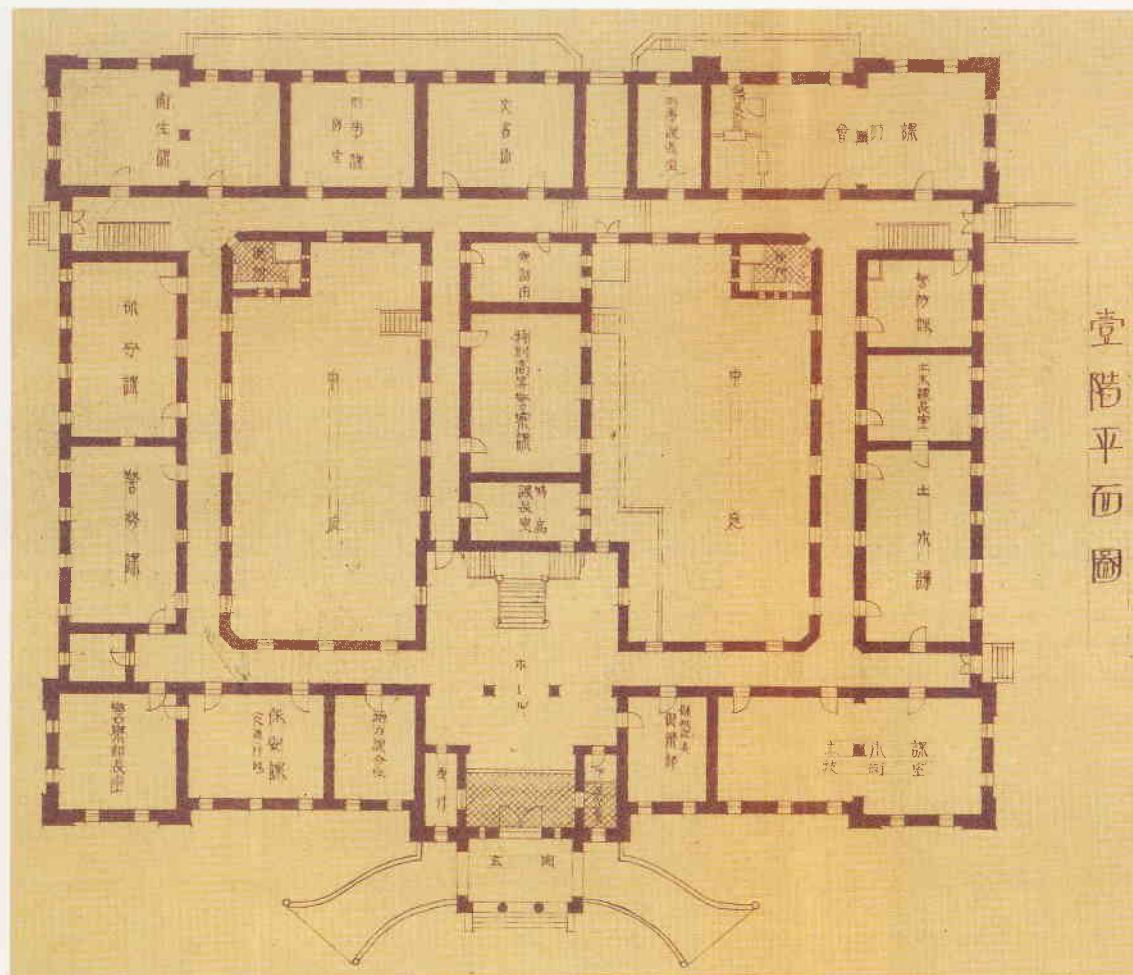


公文書館だより

第10号 平成15年2月



公文書にみる近代建築

資料1 旧県庁舎平面図1階 (「国有財産報告」)

旧県庁舎細見

昭和三十七(一九六二)年まで大分県庁は府内城址にありました。旧県庁舎は大正十(一九二一)年完成の近世式石造及びレンガ造二階建洋館建築でした。公文書館には戦前に作られた平面図が保存されています。(資料1)。

この平面図は一階・二階・地階に分かれ、各階ごとの間取りを知ることができます。またそれぞれの部屋には戦前の県庁部課名が記入されています。一般に旧県庁舎については、外観しか知られていませんので(写真1)、平面図は内部構造を知る上で貴重な資料なのです。

太平洋戦争末期の空襲もくぐり抜けた「近代化の証人」は、高度経済成長の時代の中で姿を消しました。しかし庁舎自体は無くなっても、公文書館所蔵の平面図は後世にその姿を伝えていくのです。



写真1 大正10年～昭和37年の旧県庁舎

福沢記念図書館の 平面図

大分県公文書館長 高山 直也

に事務所を移転し、そこで同年五月二十四日に付属大分図書館を開館しました。残念ながらこの建物の写真はまだ見つかっていませんし、公文書館にもこれに関する資料はないようです。

翌明治三十六（一九〇三）年は福沢諭吉の三回忌に当たっており、共立教育会では記念事業として大分町に記念文庫を、中津町に記念碑を建設しようという話がありました。教育会長をつとめていた第十代大分県知事大久保利武（大久保利通の三男）が陣頭指揮をとって、自らも募金活動に乗り出し、約六千円の募金を集めました。そして明治三十七年に事務所北側に約四千六百元の費用をかけて七五・五坪の記念文庫を建設し、名称も福沢記念図書館と改めて、同年十月二十九日に開館しました（写真2）。

しかし、大正十（一九二一）年に大分県が九州沖縄八県連合共進会の開催県となることになり、福沢記念図書館の場所に大分警察署を移すことが決まったため、大正九年、福沢記念図書館は大正天皇の即位記念として建築された大正記念館と共に県会議事堂敷地内に移転することになりました。

「教育会移転一件」は福沢記念図書館を県会議事堂に移転させることが決まったときに、教育会が県に提出した県有地

の借用願です。これによると、場所は大分市荷揚町一三〇番地の県会議事堂敷地東南隅の一角五七六坪で、借地料は無料という条件でした。

移転前の福沢記念図書館の部屋割りは、公文書館所蔵の『大分県学事年報 明治四十二年度』によると、

敷地 四四二坪

本館 四五・五坪（普通閲覧室一三・

五坪、婦人閲覧室六坪、

特別閲覧室七・五坪、新聞

雑誌閲覧室六坪、事務室六

坪、中廊下六・五坪）

玄関三坪、書庫一二坪、小使室・廊

下・便所等一五坪

となっております。

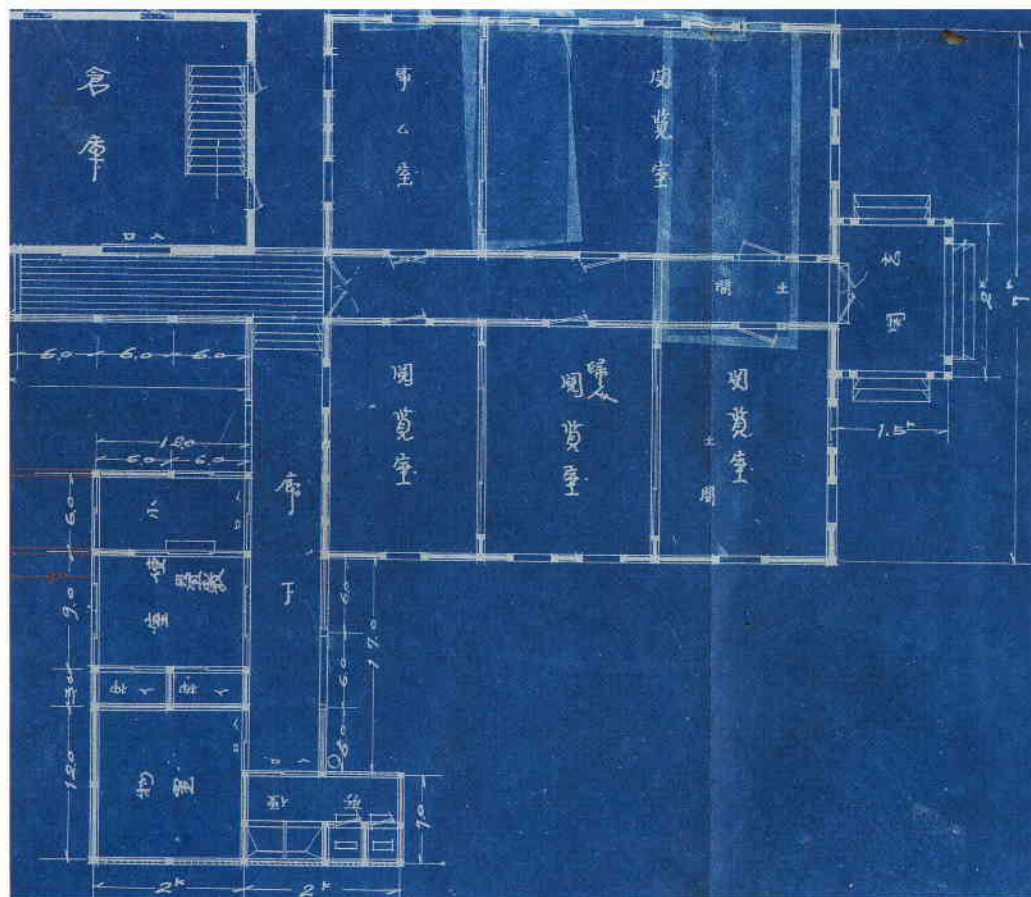
しかしその中がどういいう間取りになっていたかはわからなかったわけですが、

「教育会移転一件」に添付されている「県会議事堂構内移転図書館及記念館平面図」で確認することができます。というのは「移転二当タリテハ其ノ序ヲ以テ破損ノ箇所ヲ修復シ又改造ヲモ加フル処アルベシ」（『大分県教育雑誌』第四一八号（大正九））というように、このときの移転は改築ではなく移築でしたから、この平面図によつて移転前の福沢記念図書館がどういいう間取りであったかを知ることができるわけです（資料2）。



写真2 福沢記念図書館（『大分県写真帖』）

福沢記念図書館が県立に移管されたのは昭和六（一九三一）年四月で、そのころには全国三三道府県立図書館（未設置府県一四）の中では、沖縄県立図書館と並んで最小規模の図書館となつてしまいました。福沢記念図書館が建設された明治三十七年は日露戦争の始まった年で、「すべて県の事業は中止の状態、土木事業は全部中止した時」（『大分県教育』〈昭和九・十二・一〉「教育座談会」）でしたから、百坪に満たない施設ではあ



資料2 福沢記念図書館平面図（「教育会移転一件」）

つたにせよ、独立の図書館を建設できたというのは大変なことでした。落成式が行われた共立教育会総集会で、大久保会長に対し「茲之カ竣工工ヲ告グルニ至リシハ一二会長閣下統督其宜シキヲ得タルニ帰ス其功績洵ニ偉大ナリトス」という頌徳表を呈することを満場一致で可決し

ていることからそのことがわかります。そういう意味で公文書館所蔵の福沢記念図書館の平面図は大分県立図書館にとつては貴重な資料ですし、明治三十七年当時の図書館建築の一例を示す歴史的資料であるといえます。

調査の依頼・相談を待っています

公文書館には大学の研究者や学生、郷土史家等様々な方から、大分県の近現代資料についての問い合わせがあります。

本年度は、偶然にもこのページに紹介された大久保利武第十代大分県知事（写真3）の子孫に当たる大久保洋子さんから、次のような調査依頼の手紙をいただきました。

「初めてお便り申し上げます。曾祖父大久保利武の事績についてまとめてみようとして少しづつ調べ始めております。

大久保利通の三男として生まれ、昭和三（一九二八）年に家督相続、その後、大久保利謙（歴史学者）、大久保利泰、そして大久保洋子と続いております。利武は鳥取県、大分県、埼玉県、大阪府（就任年順）と一府三県の知事を勤めており



写真3 大久保知事（『大分県教育雑誌』）

ましたが、当時の関連資料が私どもの手元に無いに等しく、国立国会図書館、同館内憲政資料室やインターネットなどで資料所在を検索いたしましたもやはり限度がございます。公文書等どのくらいの資料が遺されているのか、お教えいただきました筆を取りました。

当時の資料をもしご所蔵でございましたらぜひご教示いただきたいと存じます。お忙しい時期とは存じますが、資料の有無につきましてご返事を頂戴できれば幸いです。よろしくお願い申し上げます。

早速調査し、大久保知事時代の施政を記した『大分縣政史』、大久保知事名の寄稿『大分縣人物志』、講演集『報徳講演集』、日露戦争時の知事の国際感覚や福祉施策をうかがわせる訓令や告諭等本館所蔵資料についてお知らせしました。

後日「今回の資料はすべて興味深く、亡父・利通の意志を受け継ぎ、人間として為すべきことに心をくだき続けた曾祖父像を垣間見ることができ、今後の資料整理の大きな励みとなりました」という丁寧な礼状をいただきました。

大分県公文書館は大久保さんの例に限らず、鋭意専心調査に当たりますので、皆さんどうぞ遠慮なく相談ください。

貴重な資料が寄贈される!

本館では明治以降の公文書のほかに様々な資料を収集保存していますが、平成十四年度も(十二月現在)、貴重な歴史資料の寄贈を受けました。お礼を申し上げると共に、ここに紹介いたします。

●中谷孝氏寄贈資料(写真4)

シベリア抑留に関する体験記、報告書等の資料や太平洋戦争当時の戦陣訓、警防手帳など一七点で、大分県発行の「警防手帳」は戦争中の緊迫した状況がうかがえるなど、当時の状況を知る貴重な資料です。

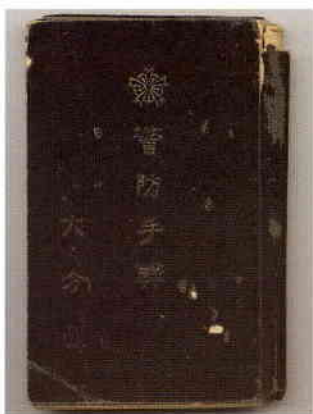


写真4 警防手帳

●佐藤利忠氏寄贈資料(写真5)

「要図ラバウル周辺」地形図や軍票、写真などラバウル関係の資料と、県内の古写真(戦中・戦後の大分市中心部の町並や七島蘭加工業風景他)等四二点で、前者はラバウル守備隊員であった氏が大切に保存していたものです。



写真6 昭和28年版大分市勢要覧

●河野光男氏寄贈資料(写真6)

昭和三十年代から四十年代にかけての都市計画に関するものを中心とした多くの資料と、氏が撮影した県内各地の写真やスライド八〇点で、後者は今後県内の町並等の推移を知る上で貴重な資料になるでしょう。



写真5 ラバウル記録写真

公文書館展示報告

公文書館では、平成十四年八月二十一日から十月六日まで収蔵資料展「いろいろあります文書の世界Ⅲ」を先哲史料館と初の共催で開催しました。

本館は、明治以降の近現代資料について展示を担当しましたが、明治の公文書や写真帳、大正の鳥瞰図や絵葉書、昭和の国宝修理記録や国体資料など幅広い分野の資料を紹介しました。また最新の資料として展示したW杯関連資料も来館者の関心を呼んでいたようです。

公文書館は、今後も展示等を通じて近現代資料の活用を努めていきます。

お持ちの資料は「歴史」です

ご自宅の建て替えや整理の際に、古い文書や写真・地図などが出てきたことはありませんか。昔の文字で中身が分からない、古い資料なので必要がなくなった、そんな場合には処分する前に、ぜひ一度公文書館までご連絡ください。

本館では、ご連絡いただいた資料について調査を行います。またご自分で保存できないような場合には寄託・寄贈をさせていただきます。貴重な資料を後世に伝えるため、公文書館の活動にご協力をお願いします。

ご利用案内



●利用時間
午前九時～午後五時

●休館日
日曜日、月曜日
国民の祝日(日曜または月曜日と重なった場合は火曜日)
年末年始(十二月二十八日～一月四日)
特別整理期間(年二回)

●編集・発行

平成十五年二月二十八日発行
大分県公文書館
〒870-0844 大分市大字駄原五八七-1
tel 〇九七-五四六-八八四〇
fax 〇九七-五四六-八八四九
HPアドレス
<http://www2.pref.oita.jp/31501/kyojin/kobun/index.html>